

第2回 三豊市就学前教育・保育検討委員会 会議録

日 時	令和元年7月18日(木) 午後2時00分～午後4時00分
場 所	みとよ未来創造館A・B会議室
出席者	<p>【三豊市就学前教育・保育検討委員会委員】14名 松井 剛太(委員長)、常田 美穂(副委員長)、則久 郁代、佐久良 恵都子、 島田 雅子、石川 眞弓、安藤 紳一、友枝 洋規、田井 清、藤井 香織、 吉田 麻有実、平尾 太一、平尾 俊文、三木 緑(敬称略・順不同)</p> <p>【事務局関係職員】11名 健康福祉部 滝口部長 保育幼稚園課 藤田課長、多田GL、松岡、富田、大西、関 教育委員会事務局 岩本部長 教育総務課 豊島課長 学校教育課 山下課長、松岡</p>
欠席者	<p>【三豊市就学前教育・保育検討委員会委員】1名 田尾 和人</p>
傍聴者	0名
会議次第	<p>1. あいさつ 2. 議事 (1) 既存計画と現状との比較(検討すべき事項の整理) 3. その他</p>
会 議 概 要	
開 会	
事務局	<p>本日はご多忙の中、第2回三豊市就学前教育・保育検討委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議は、委員15名に対して14名のご出席をいただいております。三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例第6条第2項の規定により、会議が成立することをご報告させていただきます。</p>
1. あいさつ	
委員長	<p>第2回目の会議にご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>本日は事務局から事前に資料の送付をいただいておりますが、「既存計画と現状との比較」というところが主な内容となります。今までの計画を現状に合わせて修正していくという流れになりますが、今回策定する計画がこれからの三豊市の子どもたちを育てていく方針となりますので、単純に答え合わせや間違い探しをするわけではなく、委員の皆様の様々な立場から、子どもたちへの思い、未来に向けての思いを伝えていただきたいと思います。</p> <p>そういった思いを計画策定に反映することで、今回策定する計画が今後、実際の保育所や幼稚園、地域の取り組みに繋がって行けば良いのかなと思います。本日はよろしくお願ひします。</p>

2. 議事	
(1) 既存計画と現状との比較（検討すべき事項の整理）	
委員長	議事に入らせていただきます。まず「既存計画と現状との比較（検討すべき事項の整理）」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p><既存計画と現状との比較（検討すべき事項の整理）></p> <p>◆資料①【既存計画と現状との比較（検討すべき事項の整理）】、◆別紙資料①、別紙資料②により、以下を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就学前教育・保育に関する報告書」、「三豊市保育所運営計画」と現状を比較し、今後検討すべき事項を整理した。 ・検討すべき事項がかなり広範囲となるため、どの部分を深く検討していくのか、今後の進め方等についてもご意見をいただきたい。
委員長	ただいま事務局から資料の説明がありました。既存計画と現状との比較をした上で、どういった課題があるのか、どういったことを今後検討していくのかという一覧のような資料になっておりますが、委員の皆様の中で、この部分をもう少し詳しく説明してほしいとか、ご質問等はございますか？
A 委員	<p>私立保育施設を運営しており、もうすぐ他市で幼保連携型認定こども園を新しく開園する予定である。認定こども園は、地域との交流や連携が重要視されている施設であると思っており、保護者、地域の方が気軽に利用できるような施設整備を進めている。誰でも寛げるスペースを確保し、地域の方や保護者など、毎日そこに誰かがいてくれることで、防犯にも繋がると思っている。地域の方に開放することで、園への理解も深まり、協力してくれる体制が作れる。</p> <p>また、子どもが園庭で栽培した野菜などを、地域の方が「模擬通貨」で買えるような取り組みをしたいと思っている。それが子どもの社会体験、学びの場になると考えている。三豊市で運営している施設も、地域の方との交流が深められる場にしていきたいと思っている。</p>
委員長	検討すべき事項の中で、幼稚園や保育所の「果たすべき役割」、「地域との交流」という点に関連する部分だと思う。
A 委員	公立施設と私立施設の違いを考えたときに、「私立施設にしかできない」、「私立施設だからこそできる」という点もある。公立施設と私立施設でお互いに切磋琢磨して、保育の質の向上に繋がれば良いと思う。
B 委員	現在、三豊市の中で共通した保育方針・食育等の方針はあるのか？
C 委員	各幼稚園・保育所間や地域（旧町）の中でも情報交換しており、ある程度共通し

	た教育・保育を実施している。また、人権研修等も一緒に実施している。
B 委員	各幼稚園や保育所で作っている方針はあっても、三豊市全体の共通した方針はないのか？
C 委員	公立幼稚園と公立保育所で一緒に取り組んできた「就学前教育・保育推進研究事業」の中で、「ななつのたから」という冊子を作成した。「子どもたちのための視点を持って、子どもたちを育てていこう」という共通意識を持っている。
B 委員	そのような、これまでの取り組みで良い部分がたくさんあると思うが、そういう取り組みを一度集約し、三豊市らしい教育・保育を作っていく材料にするのが良いと思う。また、保育所等で子どもが長時間過ごす上では、食事が大変重要になるので、三豊市ならではの食育体制を確立できたら良いと感じる。
委員長	「ななつのたから」が推進研究事業で作られ、全ての公立施設の共通理解となっている。その中には食育も含まれており、「ほんまもん体験」を大事にするということも示されている。今後の教育・保育方針を考える上で、「ななつのたから」のような既存のものをベースに議論を深めていく方法もあると思う。
事務局	<p>教育・保育方針の部分で言うと、これまで推進研究事業で幼稚園・保育所の研修を実施してきた中で、それなりの成果を得て、公立施設はある程度の一本の柱ができていていると感じている。新しく私立保育施設が増えている中で、推進研究事業と私立保育施設をどう繋げていくのかが課題だと感じている。</p> <p>公私関係なく、施設を利用しているのは同じ三豊市の子どもである。この検討委員会で三豊市の教育・保育方針等が出せれば、今後新しくできる私立保育施設にも、こういう方針でお願いしますと伝えることができる。「ななつのたから」を私立保育施設にも広げたいと思っている。</p>
事務局	教育委員会としては、保幼小中の連続性のある教育という点で、年度当初に指針を出している。今年度も「信頼される保育所・幼稚園」、「保育所・幼稚園における保育・教育の充実」、「子育て支援の充実」、「子どもの成長を支える連携」という項目で、小学校・中学校へ繋がる土台となるための教育・保育指針を幼稚園・保育所へお知らせしている。このあたりももっと充実させていきたいと感じている。
委員長	その指針には、小学校との連携についても記述されているのか？
事務局	記述している。
B 委員	公立施設には共通した教育・保育指針があるとのことだが、例えば私立保育施設

	の運営者は「ななつのたから」を知っているのか？
A 委員	存じ上げていない。
B 委員	公設民営や民設民営の保育施設が増えている中で、公立施設の共通した保育方針等を私立保育施設へ示していないために、これまでの良い取り組みが広がっていないと感じている。三豊市が認可する保育施設なら、同じ三豊市の子どもを育てる上で、統一した意識を持って、これは守ってくださいというものを示して欲しいと感じている。
A 委員	この検討委員会が、そのための委員会だと理解している。
委員長	そういった方針や方法等をこの検討委員会で検討していきたいと考えている。研修体制等をもう少し具体的に考えていく中で、公私の交流方法など中身のあるものを作っていきたい。
D 委員	今年度、公設民営の高瀬南部保育所が危機管理の研修を実施する予定であり、公立保育所・公立幼稚園の職員も参加する。少しずつ歩み寄りが出来始めていると感じている。公立施設・私立施設でお互いに情報交換をしていければ良いと思う。今日話を聞いていて、その部分が非常に重要だと感じた。
委員長	現時点で、公私の枠を超えた研修を実施しているのか？
事務局	特別支援の研修には私立保育施設にも参加いただいている。また、幼保職員向けの講演会にも私立保育施設に案内し、参加いただいている。
委員長	職員研修の中心となるのは推進研修事業か？それは公立施設のみでの実施か？
事務局	推進研究事業である。公立の幼稚園・保育所の職員のみでの実施である。
委員長	職員の研修体制については、今後の検討すべき事項の中でも重要なポイントになると考えている。
委員長	保護者の方から、ソフト面に関して何かご意見はありますか？「子どもたちにこのようになって欲しい」といった思いなどはありますか？
E 委員	子どもが高瀬南部保育所を利用している。民営化する前にも上の子どもが利用しており、最初に民営化と聞いた時には不安があった。しかし、子どもへの接し方など、三豊市の保育内容をそのまま引き継いでいただき、それに加えて独自にリトミ

	<p>ックや楽習保育などの新しい取り組みをしていただき、子どもたちが体を動かしたり、学んだり、保育内容が良くなっていると感じている。新しい取り組みもしているので、先生方は大変だと思うが、子どもたちのために頑張ってくれている。</p> <p>また、5歳児までの保育所となったため、お兄ちゃん、お姉ちゃんが下の子どもを見てあげるといふ光景も見られ、とてもいい保育になっていると感じる。デメリットと言えば、民間の運営者が変わるとなるとどうなるのかという不安はあるが、それ以外はデメリットを感じていない。</p> <p>危機管理の研修の話があったが、警報が出たときの対応などを市内で統一した方が保護者にとっても良いということで、三豊市と運営事業者で連携が進んでいるのかなと思う。</p>
委員長	<p>それぞれの保育所の独自性を保ちつつ、全ての施設における共通認識も重要であるという意見だと思う。</p>
F 委員	<p>須田保育所も民営化の噂を聞いたことがあり、保護者の中でも話に出ることがある。高瀬南部保育所の今話を聞いて初めて、こういうメリット・デメリットがあるということが分かり、少し理解できたというところである。同じ詫間町内の松崎保育所も民営化されたが、保育内容等の情報が松崎保育所の保護者からも伝わってこなくて、須田保育所の先生に聞いてもよく分からないという反応であった。</p> <p>民営化することのメリット・デメリットをもう少しオープンに保護者に知らせてくれば、保護者の理解も広がるのかなと思う。</p>
事務局	<p>保育所運営計画においては「公立保育所は地区（旧町単位）ごとに1か所を基本とし、まずは複数ある地区では民営化を推進する」という方針を示しており、その方針のもとで高瀬南部保育所、松崎保育所の運営委託を始めたところである。</p> <p>詫間町内には3つの公立保育所があるので、次は須田保育所が民営化されるのではないかとこの声が保護者から出ているのかなと理解している。民営化等の方針が決まったときには、きちんと保護者の方にも説明した上で進めていくことになる。</p>
委員長	<p>保護者の方が民営化についての不安を抱えているなら、この検討委員会で三豊市としての保育方針等の柱を決めておけば、新しい運営者が入ってきても、三豊市としての共通理解を持つことができる。ここでしっかりと決めていくことが、保護者の安心にも繋がると感じる。</p>
事務局	<p>公立保育所を運営委託する際には、どんな事業者でも良いということではなく、高瀬南部保育所や松崎保育所の状況も踏まえて、公立保育所を運営委託する場合の方針等をこの計画に入れるということも必要ではないかと感じている。</p>
G 委員	<p>小規模保育園を運営しているが、重要なのは職員の質の向上である。職員のレベ</p>

	<p>ルを上げるために、高瀬南部保育所へ行かせてもらって職員研修を行ったり、三豊市の元保育士の方に来てもらったりということをしているが、あくまでも個人的にお願いしているという状況である。</p> <p>仕組みとして、職員の負担が掛からないような形で、公立施設と私立施設の意見交換や情報交換の場を正式に作っていただきたいと思う。食育という点でも、三豊市の公立保育所の献立等を参考にしているが、どこの保育施設でも統一した内容でできるように、情報交換できる場を作ることが必要だと思う。</p>
委員長	<p>自治体によっては、公私関係なく公開保育を実施しているところもある。実際に保育を見てもらいながらの研修も可能なのではと思う。</p>
委員長	<p>小学校との連携という点でご意見をいただきたい。</p>
H委員	<p>連携という点で「何を連携するのか」というところだが、一番重要なのは子どもの情報交換・情報共有である。ともすれば、小学校へ上がるときに「こういった子どもが入学します」という情報提供を受けるだけで、そのときだけに留まってしまうことがよくある。</p> <p>日常的に情報交換をしなければ、子どもの成長過程は十分に分からない。日常的に情報交換をするためには、職員間の交流が非常に重要となる。保護者の情報などを共有することで、子どものいろいろな面が分かってくる。</p> <p>また、教育の面で「活動の連携」をしておいて良かったということがあった。幼稚園で実施してきた取り組みを聞き、小学校1年生でも幼稚園でやったことを繰り返すと、学習にずっと入って行ける部分があった。活動内容の連携も重要だと感じた。</p>
委員長	<p>現時点では、小学校の校長先生と幼稚園の園長先生との関係性で実施できている部分があるのか？</p>
H委員	<p>スタートはそこからだった。地域の体育祭や文化祭などの交流の中で、職員同士が打ち解けて、日常的な交流ができるようになった。</p>
委員長	<p>幼小連携という点で、行政的にそういうシステムはないのか？</p>
H委員	<p>ないと思う。</p>
委員長	<p>うまく交流できる形を検討することも、検討すべき事項の一つであると思う。</p>
I委員	<p>高瀬南部保育所の受入が5歳児まで広がり、子どもの利用者が増えて、施設的にも満杯になっていると思う。それに伴い、麻幼稚園の園児数が減少している。保育</p>

事務局	<p>所の受入体制が増えたことで、保護者は保育時間等のこともあり、保育所を選ぶようになったと思う。当時、麻幼稚園は3歳児の預かり保育がなかったために、一気に保育所へ子どもが流れたと思っている。</p> <p>従来は保育所から幼稚園へ行き、その後、小学校へ行くという流れがあったが、保育所が5歳児までの受入となったことで、その流れが変わってきている。行政の立場として、それぞれの地域ごとに考えて、逆に規制をしてでも、小学校までの子どもの流れを作りたい。そうすれば、小学校へ上がったときに子どももスムーズに入っていけると思う。</p> <p>制度の話をする、保育ニーズはこれまでもずっと高まり続けており、全国的な流れとして、幼稚園ではなく保育所を利用する子どもが増え続けている。このままでは幼稚園の子どもがいなくなるということで、幼稚園での「預かり保育」制度が始まり、幼稚園でも午後保育を行うようになったと考えている。</p> <p>しかし、もともと幼稚園は文部科学省所管ということもあり、児童福祉施設として「保育」を行う保育所の体制とは異なるため、そういった面もあり、保護者が幼稚園を選ばなくなってきている。三豊市でもここ近年、特に3歳児以上の保育所の入所児童が増えている。</p> <p>今年度から、3歳児から預かり保育を実施する幼稚園を増やしたが、幼稚園の入園児童数の増加には繋がっていない。3歳児で預かり保育を利用している子どもは、豊中幼稚園以外では市内全園で39人しかいない。0歳児～2歳児まで保育所を利用している子どもは、3歳児以降もそのまま保育所を利用しているという状況である。</p> <p>行政の立場としては、保護者のニーズに合わせて保育体制を拡充するという目的もあり、高瀬南部保育所を5歳児まで広げたという部分がある。ご理解いただきたい。</p>
I 委員	<p>説明を聞いて、どうしても保護者のための施策に思える。保護者ではなく、子どもの方針をもとに取り組んで欲しいと思う。昨年、市外から麻地区に3歳児が転入してきたが、麻幼稚園で3歳児の預かり保育を実施していなかったために、高瀬南部保育所を選んだという話を聞いた。本当に少しの差で変わってくるので、幼稚園へ行くような流れを是非作って欲しい。</p>
委員長	<p>子どもたちを最優先に考えるということを大前提とし、ハード面についても、保育ニーズを満たすためだけではなく、子どもを中心に考えて欲しいという視点での意見であると思う。</p>
J 委員	<p>豊中幼稚園は大規模幼稚園であるが、小学校との交流はできていると感じる。小学校1年生が幼稚園へ来たり、5歳児が次に行く小学校へ行ったりと、楽しい幼稚園生活を過ごせていると思う。また、近くには笠田高校もあるので、高校生とも交</p>

	<p>流もできている。植物のことや食育のことなど、高校生から楽しく教えてもらっている。</p> <p>豊中幼稚園は預かり保育を利用している子どもも多く、先生方も大変だと思う。ただし、通園バスの存続の話が出ており、通園バスがなくなると朝の預かりが増えて、駐車場が混雑するのではないかと不安である。</p>
K 委員	<p>給食のことでお聞きしたい。北部の学校給食センターはどうなっているのか？保育所から幼稚園へ変わるという保護者から相談があり、子どもがアレルギーを持っているため、給食の面で不安を持っていた。除去食や代替食など、アレルギー対応はそれぞれどうなっているのか？</p>
事務局	<p>北部学校給食センターの整備については、学校給食課の所管となるので正式なお答えはできないが、まだ決まっていないため、当面は今のままの体制となる。</p> <p>幼稚園と保育所のどちらを選択するのかという理由の一つとして、給食の面がある。保育所は自園調理を行っており、低年齢児もいるため、アレルギー対応を細かく行っている。南部学校給食センターでもアレルギー対応を行っているが、完全除去は難しいと聞いている。保育所はアレルギー対応などの特に配慮が必要な子どもにとって、重要な施設であると考えている。</p>
K 委員	<p>市内の同じ公立幼稚園なら、同じサービス（同じ給食）が受けられるようにして欲しいと感じる。</p>
L 委員	<p>ハード面については、現場の先生方の意見をそのまま行うのはなかなか難しい面があると思う。まずはソフト面でどうするのが重要だと感じる。</p> <p>三豊市の発足以降、保育士の質の底上げを目的に推進研究事業を続けてきて、公立施設の職員意識はある程度一致していると思う。私立保育施設が参入し、また、公設民営の保育所も始まった中で、三豊市の子どもを育てる方針について、推進研究事業で取り組んできたことを、公私を含めて実施していく必要を感じている。</p> <p>質の向上という点では、研修はとても大事である。顔と顔を突き合わせて研修を行うことで、分かり合えるものがあると思う。公私で取り組んでいくのは簡単ではないと思うが、ここが正念場である。講演会に参加するだけでなく、準備から一緒に取り組んでいくことが必要ではないかと感じる。</p>
副委員長	<p>ソフト面で何を大切にするのかをはっきりとさせて、その後にハード面が付いてくるとするのが重要である。給食の面にしても、公私問わずに実施できる体制を取る必要がある。研修体制の検討については、今の推進研究事業の上に乗せていければ、良いものになると思う。ただし、研修は現場の職員から声を上げるのは難しいので、方針を定めて、上から指示を出す必要がある。</p> <p>また、「三豊市らしい保育とは何か」と考えたときに、「自然」が重要なのではと</p>

	<p>感じている。「ななつのたから」にも、自然を受け継いでいく体制についての記述があり、その部分をフォーカスできたら良いと思っている。</p>
委員長	<p>ハード面については、「子ども・子育て会議」でも教育・保育の量の見込みを基に、どういった提供体制を取るのかという議論があり、本委員会だけでは決められない部分もあると思う。ソフト面をまず抑えていければ、ハード面に繋がると思う。「子どもが中心にある」という意識をもとに、ハード面を考えるのが良いと思う。</p>
委員長	<p>ハード面について、その他ご質問やご意見があればお願いしたい。</p>
A 委員	<p>認定こども園についての三豊市の方針をお聞きしたい。幼稚園型認定こども園で行くという方針か？</p>
事務局	<p>山本地区の場合は、まずは小学校の統合があり、それに伴う幼稚園の統合が事業の一番の目的である。統合幼稚園を整備するのにあわせて、その統合幼稚園に保育所機能を持たせて、幼稚園型認定こども園として開園する予定である。保育所は0歳児～2歳児対象として、山本地区の子どもは、保育所へ行き、その後、幼稚園（認定こども園）へ行き、その後、小学校へ行くという流れを作りたい。</p>
A 委員	<p>その他の地区については？</p>
事務局	<p>山本地区以外については、それぞれの地域の特性にあわせて検討する必要があると思っている。</p>
F 委員	<p>幼稚園で預かり保育を利用する場合と、幼稚園型認定こども園の違いがよく分からない。</p>
事務局	<p>幼稚園で実施している預かり保育は、児童福祉法で言うところの「保育」の基準を満たしていない幼稚園がある。あくまで三豊市の独自事業として実施している面がある。しかし、幼稚園型認定こども園になると、保育施設としての認定を受けることになるので、午後の保育も「保育」の基準を守る必要がある。</p> <p>具体的には、保育士の配置基準や面積基準などがある。幼稚園の認定こども園化をどんどん進めれば良いのではという意見もあるが、基準に沿った「保育」を行うためには、職員配置の面で難しいところがある。</p> <p>また、給食に関しては、山本地区の場合はこれまでと同様に南部学校給食センターからの搬入となるが、夏休み等については、現状では幼稚園の預かり保育では給食を提供していないが、認定こども園となると給食を提供する義務があるので、夏休み中にも給食を提供する。</p>

委員長	<p>次回の委員会では、計画の枠組み等の提案があると思う。ハード面は事務局の考える提案もあると思うので、検討委員会としては、ソフト面を中心にもう少し深く議論していきたい。</p> <p>一人ずつ発言してもらっても時間がかかるので、グループワークという形で議論しても良いのではと考えている。</p>
3. その他	
事務局	<p><事務連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は9/30（月）14時からの予定。正式な案内は後日送付する。 ・次回委員会の進め方については、ハード面について、ある程度市の提案を行い、ソフト面について議論を深める。グループワーク等の進め方も検討する。
岩本部長	<p>本日は長時間ご議論いただき、誠にありがとうございました。既存計画と現状を比較することで、課題等がさらに判明したものと思います。次回以降、様々な視点から、さらに検討を深めていただきたいと思います。</p>
閉 会	
事務局	<p>それでは、以上をもちまして、本日の委員会を終了させていただきます。今後も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。</p>